

成果と課題

1. 28年度全国学力学習状況調査の結果

<中央小学校>

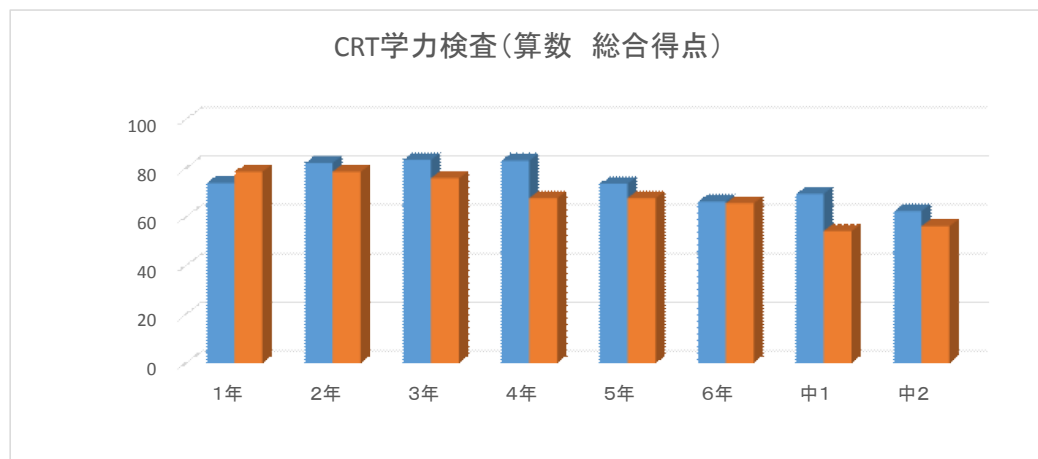
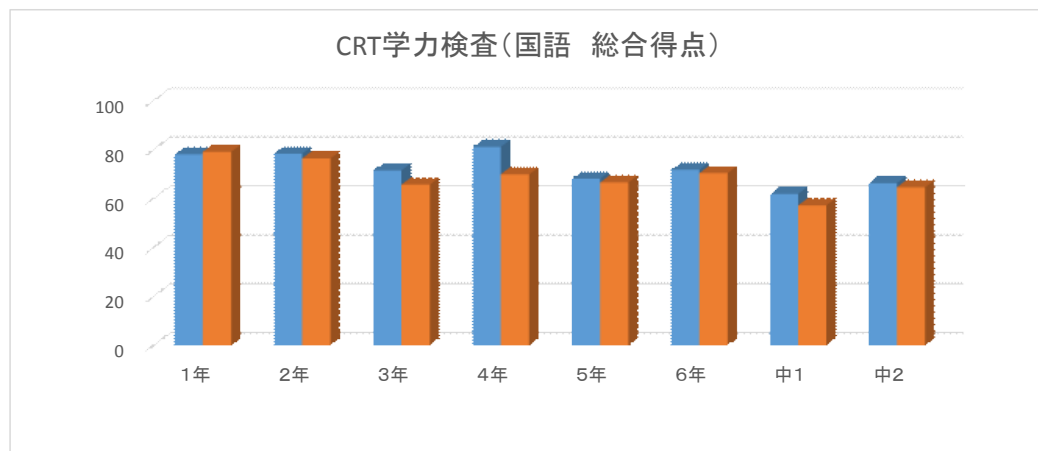
年度	平均正答率 %	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
H 2 8 (全国との差)		◎	○	○	○	
H 2 7 (")		—	○	△	○	○
H 2 6 (")		○	○	○	○	

<比布中学校>

年度	平均正答率 %	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
H 2 8 (全国との差)		○	—	◎	○	
H 2 7 (")		◎	○	◎	◎	◎
H 2 6 (")		○	●	○	○	

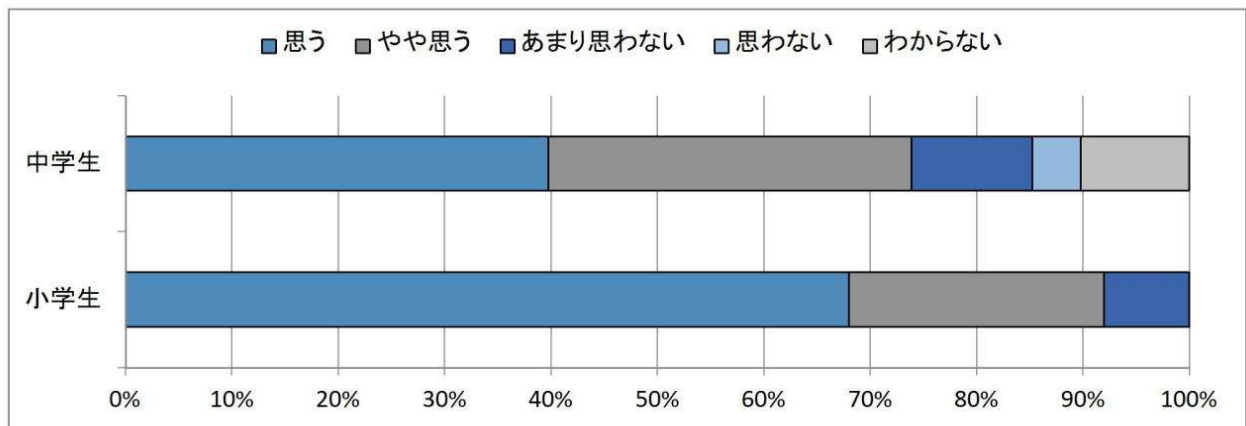
※全国平均を上回る○ (5ポイント以上◎)、全国平均並—、全国平均を下回る△ (5ポイント以上●)

2. CRT 検査の結果 (27年2月実施)

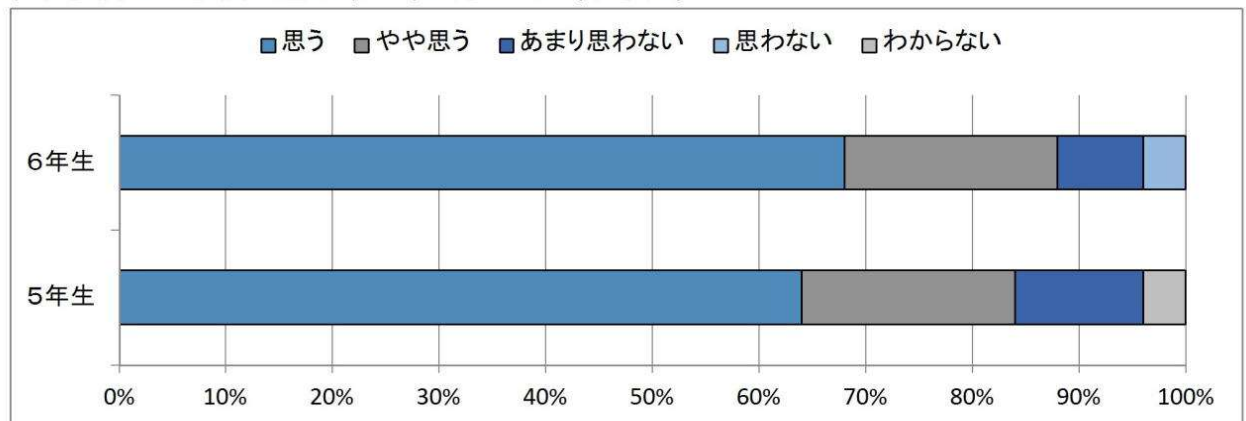


3. 児童・生徒アンケート

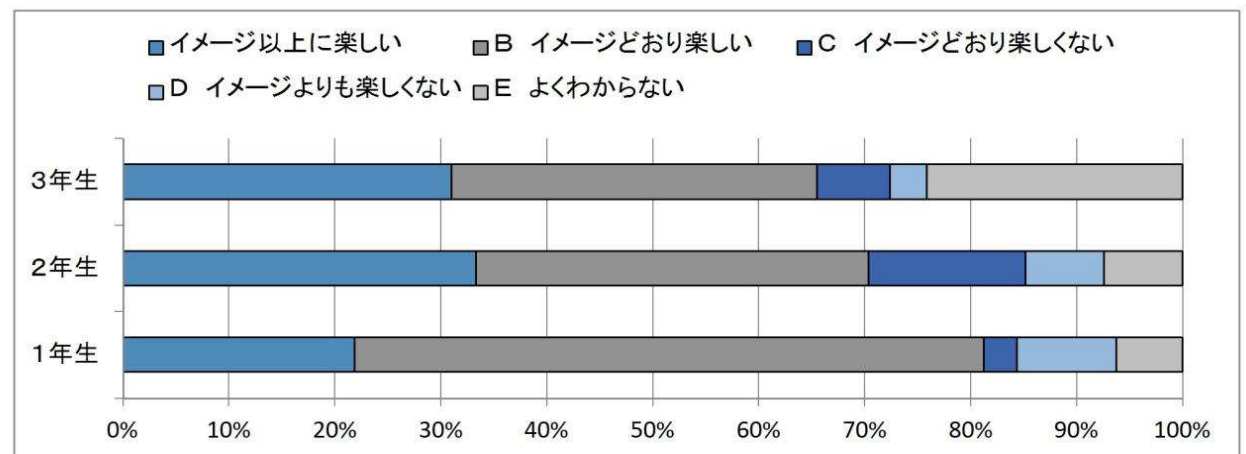
◇小学生と中学生と一緒にさまざまな場面で活動することは、よいことだと思いますか？



◇中学校での学校生活は楽しみですか？（小学生）



◇中学校生活は小学生の頃のイメージと比べてどうですか？（中学生）

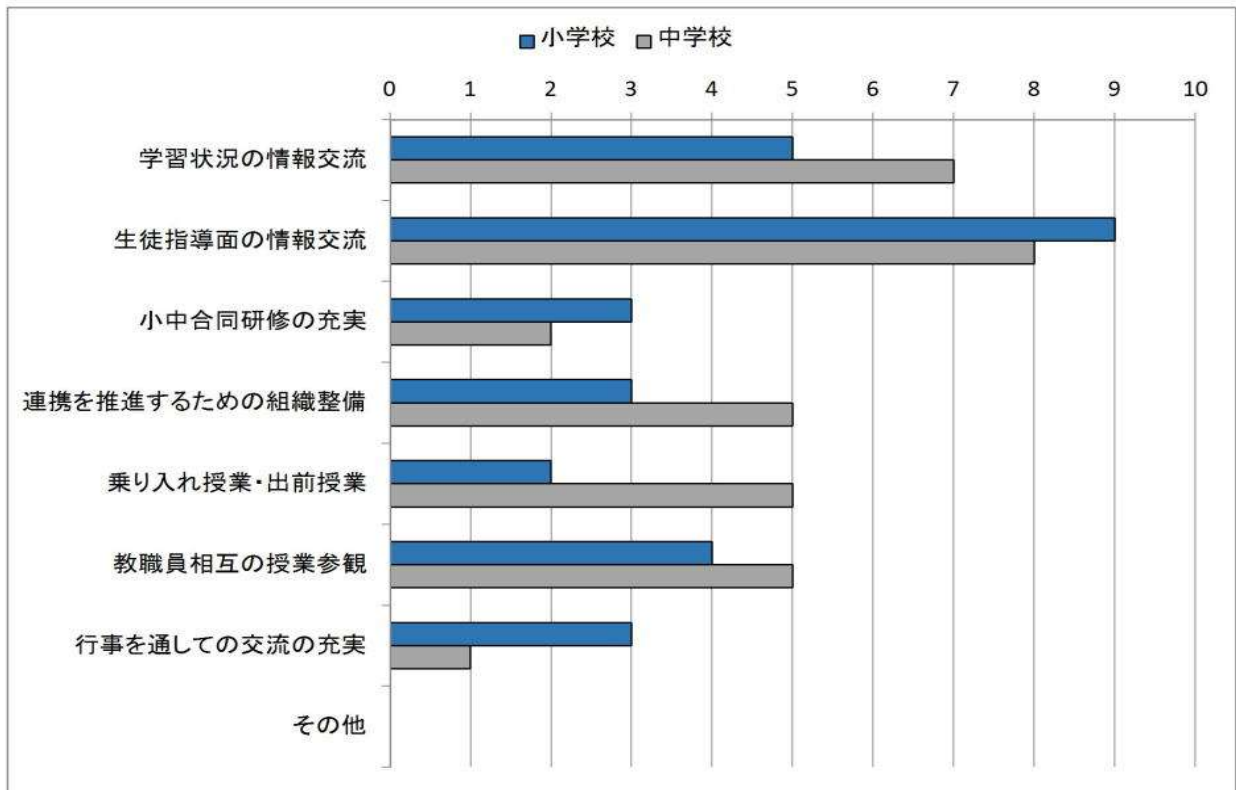


< 考 察 >

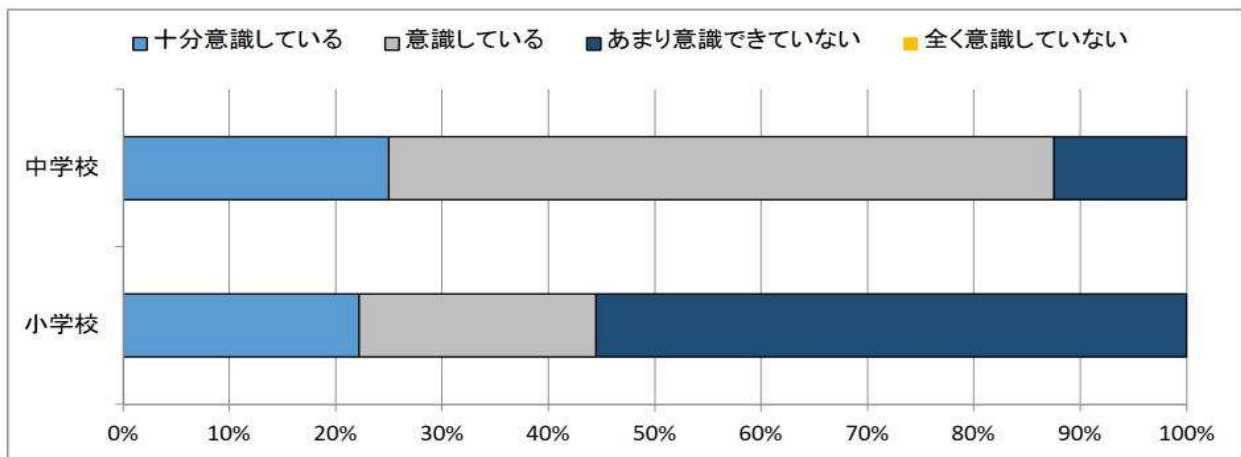
これまで取り組んできたもの、今年度行ってきたことの成果からか、小学生の中学校生活に対する期待度は高く、中学生では特に現中1の評価が高い。（グラフから中3～中1に向かうにつれ、評価は高めである）。連携の成果は一定以上得られ、児童・生徒に好影響を与えている。

4. 教職員アンケート

◇小中連携を行う上で大切なことは？



◇中学校への授業のつながり（小学校からのつながり）を授業の中で意識していますか？



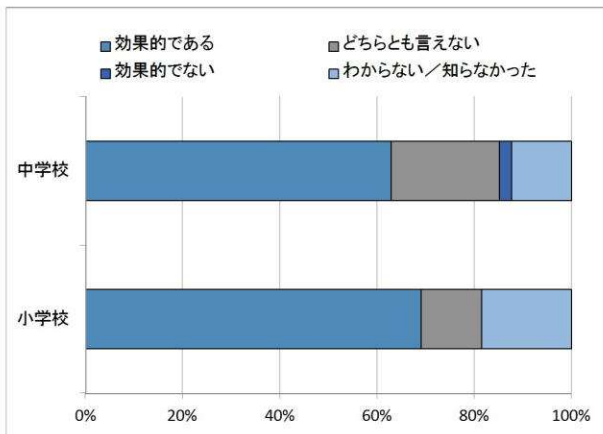
< 考 察 >

特に『学習』『生徒指導』にかかわる情報交流が必要と感じており、それが中1ギャップの解消につながるという見方がグラフに現れている。また、継続してきたもの、新たに取り組まれたものが出てくる中で、無理のない形で小中連携の推進していくことが今後の課題である。

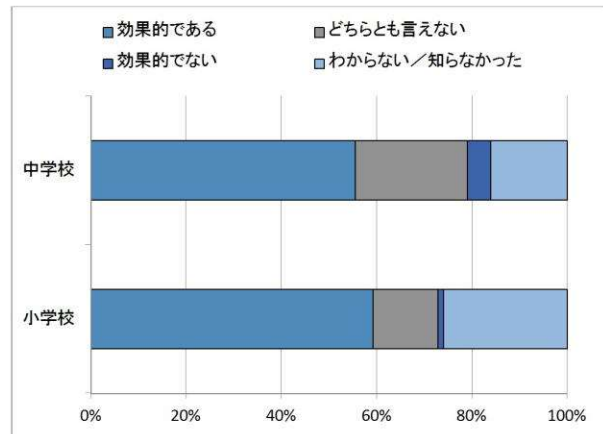
小中連携は非常に大切な取組で、効果も高いことが生徒からのアンケート、保護者からの声からも明らかであるが、だからこそ、効果があり、かつ長く続けられるものが何なのか、吟味していきながら連携を図っていく必要がある。

5. 保護者アンケート

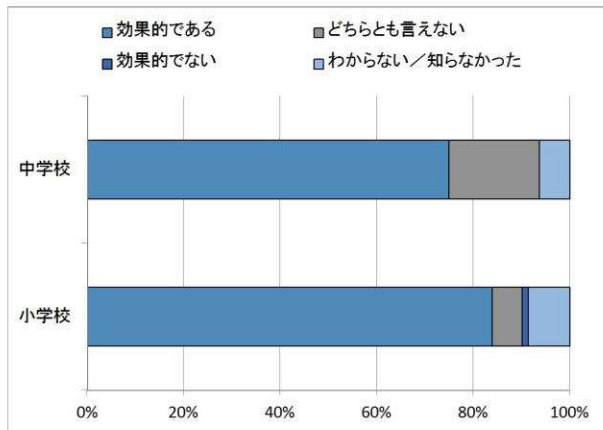
◇乗り入れ授業について



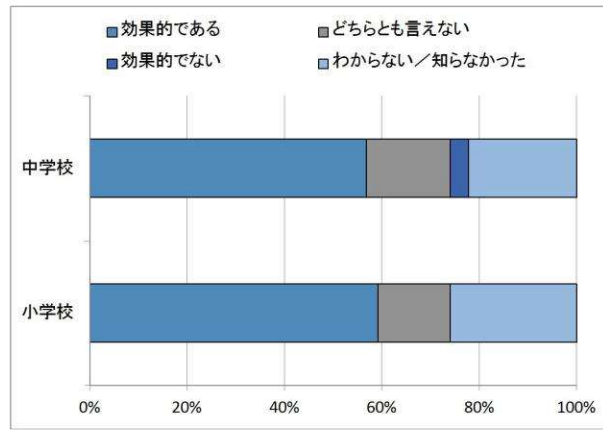
◇出前授業について



◇一日体験入学について



◇小中合同あいさつ運動について



6. 成果と課題

<学力の定着が図られている>

○全国学力学習状況調査において、小学校、中学校共に全国平均以上を安定して維持しており、CRT検査においてもすべての項目で全国平均を上回っている。これらは、乗り入れ授業や出前授業等の取組によって、早くから中学校生活に順応させ、落ち着いた学習環境づくりに貢献していると考えられる。

<中1ギャップの解消>

○児童生徒のアンケートの結果から、乗り入れ授業、出前授業、あいさつ運動などの取組が、児童の中学校への進学に対する不安を解消し、期待感を高めるのに貢献していることがわかる。

<教職員の意識の変化>

○教師にとって、義務教育9カ年で子どもを育てる観点から、生徒指導や学習指導において小学校からのつながりの意識が高まりつつある。

<地域・保護者の理解>

○小中連携の取組に対しての意義等について、地域や保護者に浸透しつつある。

<残された課題>

- 小中の教員の間で、まだ意識の差がある。今後一層、各取組のねらいや意義を確認し、共通認識をもちながら実践していく必要がある。
- まだ、小中連携の取組が保護者に浸透していないものもあり、今後一層、地域や保護者に対しての情報発信が求められる。